

夏池 篤 報告

NATSUIKE Atsushi

永沼直孝 翻訳

NAGANUMA Naotaka

ナーメディ城野外アート展 2005

2005年7月ドイツで開催された野外展に参加する機会があった。ケルンとフランクフルトの中間に位置するナーメディという小さな町にある城の周辺の庭園がその会場となった。森に囲まれ恵まれた自然環境の中にある庭園でアートがどのように自然と共生できるかがこの展覧会のテーマである。今回は第3回目の野外展になり、参加者はドイツ人3名イギリス人1名に著者を加えた5人だった。7月10日～17日が準備期間で、その後1年間その場に継続して展示し、その時点で作品に問題が無ければ更にもう1年展示するといった計画ある。

ドイツには多くの現代美術館が、それぞれの都市にある。これは、フランス、イタリアのような壮大な美術史をもつわけでもなく、イギリスのように美術品を世界から調達できたわけでもない国が取った賢明な選択であると考えられる。また第2次世界大戦の反省から、現代アートの自由な表現に、新生ドイツの未来への可能性を見出したいという願望も強いのではないか。その流れは、このような小さな町にも息づいているようである。

このイベントの主催者はナーメディ城主であるハイデ・フォン・ホーエンツォレルン妃である。ホーエンツォレルン家は999年に始まるという1000年以上続く家柄で、このような旧体制を継承している立場にありながら、新しいアートイベントを独自に積極的に企画し、社会貢献していきこうという姿勢には非常に好感を持った。

イベントの内容は、野外アート展だけではない。オープニングにおいては、「平和への祈り」として、あらゆる宗派の僧侶が平和のための祈りを次々と捧げるのである。昨年は仏教の僧侶の参加もあったと聞いた。またジャズやクラシックの野外コンサートが繰り広げられ、アート関係者以外にも城の周辺の住民が多く集まりこのイベントを楽しんでいた。

城の一部は結婚式場、コンサート会場、宿泊施設として一般に開放されている。著者も宿泊は、この城の1部屋を提供されたが、その重厚な内装と歴史のある調度品は、日本人の私にとっては、息苦しさをも感じさせるものであった。この滞在を通して城の維持管理の大変さも察せられ、このアートイベントが城主にとって単なる慈善事業でなく、理念に基づいた上で経済的な安定も含めたより良い形で城の存続を目指すための試みの一つであることを実感した。



ナーメディ城



オープニングパーティ風景



平和への祈り

芸術・文化に関心をお寄せの皆様、 ナーメディ城を訪れる皆様へ

ハイデ・フォン・ホーエンツォレルン
(ナーメディ城主)

ナーメディ城の特殊性とはなんでしょうか？
それは、この城を設計し建築し、またここで喜怒哀楽に生きた人々の足跡でしょうか？ それは、秋の古木
のつぶやき、あるいは、暗然たる月々に老いたライン
が河床を離れ、古城のまわりをあふれ流れるときの、
水の精のささやきでしょうか？ あるいはまた、早春
に目覚め、夏に華麗に広がる自然の生命力やエネルギー
ででしょうか？ それは、言葉の自然な意味において、
自然が創り出す芸術そのものなのでしょう。

そうして、芸術家（アーティスト）は ——
自然の魔術に自らの心と感性を開かせ、その秘密
に聞き入り、反応するのです。

さて、「庭園の中のアート」は、今回で三回目になり
ますが、今までの参加作家を合わせ十七人の作家の
方々が、作品やパフォーマンスやインスタレーション
を制作し、私たちの周囲の環境、ナーメディ城、庭園
などに新しい体験の可能性を与えてくださいました。
充分なパワーと空想力やヴィジョンを得、それぞれの
日常にまたもどっていく、そのために私たちは、自然
とアートが繰り広げる対話（ダイアログ）を受け入れ、
耳を傾けようではありませんか。

これからも、皆様共々、さらなる出会いとところの通
い合いと、多くのインスピレーションの機会に恵まれ
ますことを願って。

「庭園の中のアート」コンセプト

ディルク・ヴァインガルツ
(本アートプロジェクト キュレーター)

このナーメディ城庭園におけるアートプロジェクト
は、文化やメンタリティがその作品に反映されている、
国際的に活動する芸術家たちを紹介するというコンセ
プトのもとに成立しました。

ナーメディ城主、ハイデ・フォン・ホーエンツォレル
ン妃は、すでにかなり早くから、このナーメディ城庭
園に対し、特別の関係を育んで来られました。妃はま
た造形芸術に関心をお持ちのため、ナーメディ城庭園
と造形芸術という両方のファクターを、一つの文化的
プロジェクトとして融合したいと願われ、「庭園の中
のアート」展が実現致しました。この庭園と自然は、
生と死の循環性、さらに、自然の美と力、無常性そし
て生命の活力など自然のもつ根源性というものを想起
させます。

参加する芸術家は、当地の場所とその自然が醸し出
す特殊な環境から自己を触発し、それに答え、反応さ
せるのです。

ここで、彼らは、インスタレーションやパフォーマン
ス、アクションアートなどにとって、
オプティマルな条件を見出すことでしょう。そしてそ
れは、例えば、協調やコミュニケーション、異文化と
の出会い、平和、あるいはまた、もののはかなさとい
った概念や意味性を個性的な方法で表現する理想的な
可能性ともいえるのではないのでしょうか。

ここで創られた作品を通し、鑑賞者は芸術を自分流の
やり方で自由に体験し、個々のファンタジーや思想、
経験というものを発展させることができるでしょう。

今まで何年かに渡り開催して参りましたこのアートブ
ロジェクト週間の成果に対し、ポジティブな反響をい
ただいておりますことは、ひとえに、「このアートブ
ロジェクト（アートイベント）をナーメディ城文化
プログラムの継続的ハイライトとして確立する」とい
う私共の目的へ向い、さらに一歩近づいたことを示し
ていると思うのです。

"Keep Rolling the Earth!" 「地球を回しつづけよう！」



Wir leben auf einem in die Krise geratenen Planeten. Mit meinem Werk sende ich den Menschen diese Planeten die Botschaft:

"Keep rolling the earth!" - "Lasst uns weiter die Erde drehen!"

("Lasst uns weiter dazu beitragen, dass die Erde sich dreht")

Meine Arbeit besteht aus fünf einzelnen Fahrradradern, die der Betrachter per Hand drehen soll. Dabei steht das Rad für die Erde. Wenn der Betrachter ein einzelnes Rad dreht, wird ein kleiner Dynamo aktiviert, der an der Radachse eingesetzt ist, um das LED aufleuchten zu lassen.

Während der Drehung eines jeweiligen Rades zeigt sich entsprechend auf dem LED ein bestimmtes Wort, wie zum Beispiel, u. a. "Killing - Ermordung", oder "err - Fehler". Also Taten, die gerade irgendwo auf der Erde begangen werden konnten.

Erst wenn alle Räder eins nach dem anderen gedreht worden sind, also ich meine im übertragenen Sinne - erst wenn alle Menschen einander helfen und kooperieren können - wird die Botschaft auf dem LED gezeigt:

"Keep rolling the earth!" - "Lasst uns weiter die Erde drehen!"

("Lasst uns weiter dazu beitragen, dass die Erde sich dreht")

われわれは、危機に瀕した惑星に生きている。わたしは、この作品を通して、この惑星（地球）の人々へメッセージを送る —— 「Keep rolling the earth !」 — 「地球を回しつづけよう！」

(「地球が回るため(こと)に力を尽くし(貢献し)続けよう」直訳)

わたしの作品は、鑑賞者が手で回す為に設置された、自転車の車輪五個から成り立っている。ここにおいて車輪は地球を象徴している。鑑賞者が一個の車輪を回転させると、車輪軸に取り付けてある小型のダイナモが働き、LEDが点灯する。

それぞれの車輪のひとつひとつが回転している間、それに対応したLEDが点灯し、特定の言葉が明るく示される。たとえば、「KILLING — (殺人)」「ERR — (あやまち)」など。つまり、これらは地球上のどこかで、たった今行われているであろう行為なのである。

車輪が次々に全部回転されると、すなわち、比喩的に言い換えれば —— 人々がお互いに助け合い協力し合せて —— はじめて、LEDが次のメッセージを示す：「Keep rolling the earth !」 — 「地球を回しつづけよう！」

(「地球が回るため(こと)に力を尽くし(貢献し)続けよう」直訳) と。

訳者あとがき： ドイツ語に訳す際、「地球を回しつづけよう！」のドイツ語直訳では、ドイツ語的でないため、ドイツ語的表現を括弧で付け加えた。

A. Barbara Greul Aschanta A. バーバラ・グロイル・アシャンタ

"Die Robe" 「ローブ」



Der Baum trägt eine Robe aus Reisigbesen, die leicht

vergoldet und versilbert sind. Die Bäume sind mythologische und ethnologische Ganzheitssymbole des Lebens und des Todes. Somit sind die Bäume Träger des universellen Geschehens.

DIE ROBE ist eine Huldigung, gleichzusetzen mit der Schmückung religiöser Bildnisse in den verschiedenen Kulturen.

Die Jahreszeiten, das Wetter, das Leben des Baumes haben Einfluss auf die Erscheinung der Robe.

Dieser Baum ist krank - so dient die Robe auch

als Schutzmantel und hat eine Nord-, Süd-, West- und Ostmarkierung, die dem Baum Kraft geben soll.

Für die Buche ist Schatten lebenswichtig. Ihr Stamm hat keine dicke schützende Rindenschicht und reagiert auf Sonnenbestrahlung und Temperaturschwankungen.

(作品の) ブナの立ち木は長くゆったりとしたローブをまとっている。ローブは、柴をより合わせたほうきを集めたもので、(握りの部分には) 軽く金や銀の色が施されている。

木というのは、神話や民俗学における生と死の統一の象徴である。その意味において、木は万有事象を(内包し) 身に具現しているといえる。

作品「ローブ」は、ひとつの敬意のしるし。わたしはそれを、様々な文化の中でおこなわれる宗教的肖像を装飾することと同等の行為として表現してみた。

四季の変化、天候、木の生命などは、ローブの外観に影響を及ぼす。

この木は病んでいる —

だから、このローブは保護用マントとしても役立つ、そして木に活性(またはエネルギー、力)を与えるべく、東西南北のしるしがつけてある。

蔭はブナの木にとって命を左右するほど重要なファクターである。この幹には、身を保護する厚い樹皮がなく、太陽光線や温度変化に反応しやすいのだ。

訳者あとがき: 括弧()内は、意味を補足するために書いた。原文には、書かれていない。

Graham Maule グラハム・モーレ

"Pergola 8" 「パーゴラ 8」



Die Pergola war zerfallen. Nie mehr würden Weinranken ihren angespannten Körper nachspüren. Fleisch und Blut waren lange in der süßen roten Erde versickert.

Das dachten sie!

Splitter in ihren Köpfen, sie zögerten, sie verschoben sich, legten sich nieder und warteten.

Da bewölkte sich der Garten von Osten und Westen, zwei Winde pfliffen.

Endlich, nicht länger im Stande ihre eigenen Hände und Füße zu sehen, fingen sie an zu wachsen.

So entstand das Experiment mit den Aposteln und Maria zwischen Baum # 1 und Förster.

(Die Basis der Arbeit von Graham Maule bilden die 2 Grundrisse der Kölner Kirchen St. Maria im Capitol und St. Aposteln.)

The pergola had fallen. No more vines would

trace its taut body. The flesh and blood had long been interred in the sweet red earth. They thought it.

Spinters in their heads, they hesitated, put off, put down and waited.

Then the garden clouded over, from both east and west. Two winds whistled.

At last, no longer able to see their own feet and hands, they started their experiment between tree # 1 and the Forester.

パーゴラは崩壊してしまった。もう二度とブドウの蔓たちは、そのはりつめた体軀を見ることはできないだろう。血と肉は、長い間、甘い赤土にしみ込んでいった。

そう彼らは思ったのだ!

彼らの脳裏には細かく鋭い破片が。彼らはためらい、からだをずらし(あるいは、時期をずらし)横たわり、待つのがだった。

そこへ、庭園の空が東と西の方から曇り、二方の風が音を立ててうなった。

遂に、自分達の手足をもはや見つめることなどできず、彼らは成長をはじめた。

そのようにマリアと使徒たちをテーマとした、木 # 1 と山番の間の実験 (e x p e r i m e n t) は始まった。

(グラハム・マウレの仕事の基礎をなしているのは、ケルンの聖マリア教会と聖使徒教会 [聖アポステル教会] の二枚の見取り図である。)

訳者あとがき： この文章は難解な表現に仕上げられているので、和訳は、訳者の個人的な作品解釈に基づき行なっている。

Joachim Römer ヨアヒム・ロエマー

"Die Hundsrose" 「ドッグローズ」



Asphaltblumen, eingesperrt in einem hoch eingezäunten, lange nicht genutzten Tennisplatz, bewacht von der Natur.

Die Blütenform der Hundsrose (Hagebutte) - eine Pflanze, die auf nahezu jedem Boden wächst, an Straßenrändern, wie auch auf Mülldeponien.

Die Oberseite ist bedruckt mit der Form und Struktur des Asphalts, fotografiert an sechs verschiedenen Stellen in Köln.

Die Unterseite ist bedruckt mit der Darstellung von Gräsern, fotografiert an drei verschiedenen Stellen im Park von Burg Namedy, eingeschrieben ein Gedicht (von Susanne Brandhorst):

Die hundsgemeine Rose

Ein Dornenbusch am Strassenrand Weiss-rosa sind die Blüten.

Sein sommerliches Festgewand Insekten still bebrüten.

Im Herbst dann trägt der Stachelstrauch an vollgehängten Zweigen den glatten Hagebuttenbauch und lässt die Äste neigen.

Die kleinen roten Früchte dann Zerrieben in den Händen, den Grossen unters Hemd getan hinab bis zu den Lenden.

Der Juckreiz sich entfalten wird Gleich zwanzig Mückenstichen. Bis Goliath sein Kleid entwirrt, ist David weggeschlichen.

「アスファルトの花」は、長く使用されていない、高い柵に囲まれたテニスコートの中に閉じ込められ、自然から監視されている。

それらはドッグローズ（ハーゲブッテン＝野バラの実）の花形をしている — ほとんどどんな地面にでも、例えば路傍や、ゴミ収集場のような場所にも生える植物である。

花びらの上面は、ケルンの町 6 箇所で撮影したアスファルト道路の形と表面のテクスチャーが印刷されている。

下面には、ナーメディ城庭園内の 3 箇所で撮影した草（イネ科に属した種類を指す）が印刷してあり、さらにスザンネ・ブランドホルストの詩が書かれてある：

ドッグローズのいたずら

道端に茂るイバラ

その花びらはホワイトローズの色。

それはかれ（イバラ）の、夏の祭の晴れ着
昆虫たちは静かに孵化するのだ。

秋ともなれば、とげの茂みは

いっぱい垂れ下がる小枝に

つるつるひかるハーゲブッテンの丸い実をつけ、
枝を傾けさせる。

小さな赤い実は、さてそうなったころ、

手の中ですりつぶされ、

おとなたちの、シャツの下に

腰の高さまでそっとおとされる。

かゆみが広がっていくだろう

二十もブヨに刺されたように。

さて巨人のゴリアテが、服を解きほぐすまでには、
もうダビデは忍び足で立ちさっているのさ。

Wolfgang Stöcker ヴォルフガング・シュトッカー

"Heuraum" 「ホイラウム (干し草の部屋)」



Der Heuraum befindet sich im Park dort, wo der Blick frei über das Rheintal schweifen kann. Hier wirkt die Konstruktion wie eine Landmarke.

Wer das turmartige Gebilde näher untersucht, entdeckt einen Durchgang, der den Weg in das Innere des "Gebäudes" aufschließt. Was den Besucher dort erwartet ist nicht direkt ersichtlich. Die aus gestopftem Heu bestehenden Wände versperren den Blick. Der Eingang ist niedrig. Es kostet schon ein wenig Mühe, den Raum zu erforschen.

Im Innern des schmalen Turms ist der Besucher auf allen Seiten von Heu umgeben. Nun herrscht Enge, wenige Zentimeter vor den Augen des Betrachters entfalten die Heuwände ihre faserige Struktur. Nach oben hin ist der Raum aber offen. Kein Dach versperrt den Blick in den Himmel. Die wechselnden Formenspiele der Wolken erscheinen hier wie in einen Guckkasten gebannt, die Landschaft ist in dieser Raumsituation verschwunden.

Überall wo wir Gebäude betreten kann dieser wundersame Effekt eintreten. Wir begeben uns in das Innere einer Hülle und sind dort neuen sinnlichen Wirkungen ausgesetzt.

Der Heuraum ist eine Art Spielzeug für die Spaziergänger im Park. Wer sich dort hineinbegibt wechselt

die Perspektiven und definiert seinen Standort neu.

Vielleicht aber verkörpert dieser Heuraum auch eine zeitliche Dimension. Die Heuwände werden wieder vergehen. Der Wind wird an ihnen nagen und schließlich wird nur das hölzerne Gerüst übrig bleiben.

Das Sensen und Schichten des Heus war ein wichtiger Bestandteil des Projekts. Nicht nur Mittel zum Zweck, sondern jene Art von verspielt erwartungsvoller Mühe, mit der wir in der Kindheit eine Hütte oder ein Baumhaus errichtet haben.

ホイラウム、「干し草の部屋」は庭園内のラインの谷を自由に眺望できる位置に建っている。この構造物はここではランドマークの役割を果たしている。

この塔のような造形物をよく見てみると、「建て屋」の内部への導入口がある。訪問者を待ち受けているものはそこからは直接に見えない。干し草を詰めてできている壁が、視界を遮っているからだ。入り口は背が低いので、部屋を探索するには少し苦労するだろう。

細い塔の内部では、訪問者は四方を干し草で囲まれることになる。さて、そこでは狭さが支配的だ。目の前数センチには干し草の繊維構造が広がる。しかし、上へむかって空間は開いている。屋根がないので空への視線は遮られることがない。ここから見る雲の形がかわる様子は、のぞきからくり箱のように魅惑的に出現し、この空間状況においては、周りの風景は視界から消えてしまっている。

私たちが建物に入ればどこでもこのような不思議な効果が起り得るだろう。包みの中に入ると、そこには、新しい感覚作用が生じる。

「ホイラウム」は、庭園内を散歩する人々にとって、一種の「遊具」である。

この中に入る者は、そこでは、目の前の展望（パースペクティブ）を変え、自分の立脚点を新しく限定する。

おそらく又、この「ホイラウム」は時間的次元をも体現化しているのではなかろうか。

干し草の壁は再び消えてなくなってしまうだろう。風はそれらを風食し、ついには木の芯棒のみが残る。

干し草を大鎌で刈り、細かく仕上げ削りする作業は、このプロジェクトの重要な構成部分である。建てるという目的的手段であるだけでなく、それは、私たちが子供の頃、小屋や木の上のハウスをつくった時の、遊び戯れながら期待に心をわくわくさせた、あの楽しい「秘密基地」に似た種類のものなのだ。

作品のコメントは、展覧会期間中会場にドイツ語で
掲示されたものです。

日本語訳は、ドイツ在住彫刻家永沼直孝氏に依頼し
たものです。なお氏には、翻訳のみならず、著者のこ
の展覧会の参加においてもお骨折りいただき、心より
感謝いたします。

主催：ハイデ・フォン・ホーエンツオレルン

企画：ディルク・ヴァインガルツ

翻訳：永沼直孝

写真：アンドレア・フル

夏池 篤